

Field /分野 : Remedial Education

リメディアル教育に対応する映画英語教科書

—Movie English Textbook to Accommodate Remedial Learning—

井村 誠 (大阪工業大学)

英語が苦手な学生に対応した教育が益々必要となってきた中で、大学英語教科書にも様々な工夫が求められている。本発表ではその試みの1つとして、学生に(1)興味を持たせ(Intriguing)、(2)やる気を起こさせ(Motivating)、(3)学習習慣を身につけさせる(Habit-forming)ことを目的とした映画英語教科書の制作と授業実践について報告する。

1. 教科書の概要

STEP UP WITH MOVIE ENGLISH (金星堂 2010) は、2本の映画を題材に、ストーリーを書き下ろした **Reading Focus**、シーンのセリフを中心とした **Scene Focus**、学習方略を解説した **Learning Strategy** の3セクションからなり、次の4つの特色を備えている。

(1) 面白く、感動を与える映画が題材 → 学生の興味を惹く

映画の選択にあたっては、学生の興味を喚起するという観点と、教育的な配慮から、感動や勇気を与えるもの、人生や友情について考えさせるもの、学校生活に関係のあるものという条件を備えた映画として、Pay It Forward (2000年 Warner Bros.) と Night Museum (2006年 Twentieth Century Fox)を選んだ。

(2) 学ぶ喜び(分かる・できる)を感じさせる説明とタスク → やる気を引き出す

この教科書では、まず映画全体を観て、あらかじめストーリーを理解した上で学習することにより「訳す」ことから離れて「英語に集中する」ことを主眼としている。読解ではフレーズ・リーディングによって英語の語順どおりに意味をつかんでいく練習を中心に「英語脳」の養成をこころがけ、コミュニケーション活動では、映画のシーンやスクリプトを利用した状況会話のロールプレイを中心に、定型表現を基にした自己表現へとつなげていけるよう工夫した。またコラムでは文化的な事象に触れて学生の興味を喚起し、語法・文法チップのコナーでは、主に口語英語の用法について、できるだけ文法用語による規範的な解説を避け、学生の直感的な理解を促進するような説明をこころがけた。

(3) 学習方略が身に付くエクササイズ → 学習習慣を身につけさせる

各ユニットの最後に Learning Strategy のコーナーを設け、「語彙学習法」、「文法学習法」、「リスニング学習法」、「読解学習法」についてそれぞれ3單元ずつ解説し、学生がこれらを普段の学習に取り入れることができるように、自習課題をつけた。自習課題を通じて学

Sep. 8 (Wed.) 11:55-12:20 PUB 400

生が語学学習における訓練の大切さに気づき、学習を習慣化させると同時に、学ぶ力（集中力・持続力・計画力）を身につけることを狙っている。

(4) 教授用資料の充実

教授用資料には Reading テキストの試訳やエクササイズの解答だけでなく、各単元での学習ポイントや、発展的なアクティビティーの例を掲載した。

2. 授業実践例

映画を利用して、以下のような様々な学習活動が可能である。発表では、授業のモデルプランと授業での実践例を報告する予定である。

(1) 字幕操作 → 3 ステップ学習

Step-1（日本語字幕）：まずは楽しみながらストーリーをつかむ

Step-2（英語字幕）：ストーリーが分かっているので英語に集中できる

Step-3（字幕なし）：英語の音に集中する（聞き取れない個所は英語字幕で確認する）
（発展学習）

- ・ 英語音声と日本語字幕を比較する
- ・ 日本語音声と英語字幕を比較する

(2) 映像・音声の切り替え

- ・ 映像を消して、音声のみを聴きとる
- ・ 音声を消して、映像からセリフを再生する
- ・ 映像と音声の観察から、コミュニケーション上の様々な特徴に気付く
 - プロソディー（抑揚、ストレス、ピッチなど）
 - ノンバーバル・コミュニケーション（ジェスチャー、アイコンタクト、間の取り方など）

(3) ロールプレイ

- ・ セリフの音声を一部消して、映画の中の俳優と会話する

(4) ボイス・オーバー（ペアワーク・グループワーク）

- ・ 場面のセリフ音声を消して、セリフをかぶせる

(5) アクト・アウト（ペアワーク・グループワーク）

- ・ 場面のセリフの続きを自分たちで考えて、声で演じる